

経済情報：2023年4-6月期の 実質GDP成長率（1次速報値）

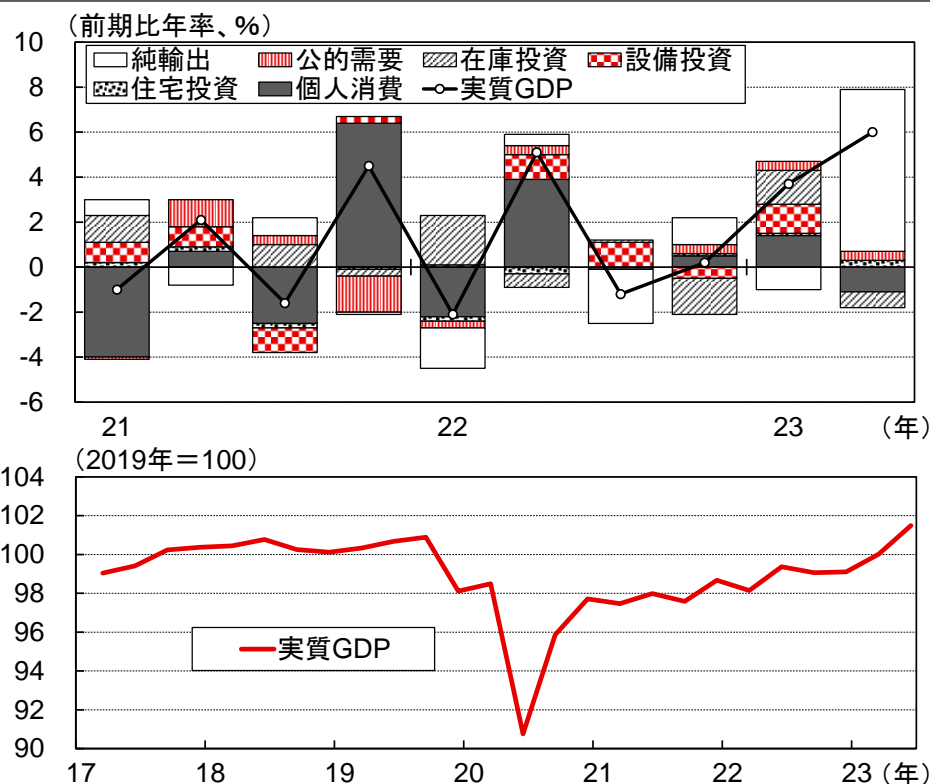
2023年8月15日

三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室

1. 要旨

- 2023年4-6月期の実質GDP成長率(1次速報値)は前期比年率+6.0%と前期から大きく加速し、実質GDPの水準もコロナ禍前(2019年平均)を取り戻した。もっとも、成長率は外需によって大きく押し上げられており、内需は減少。個人消費は物価高が重石となり3四半期ぶりにマイナスに転じた。
- 先行き、経済活動正常化や企業の旺盛な設備投資意欲を背景に景気回復は続くとみる。もっとも、インフレ率は当面高めの伸びが続くことから家計の実質所得の改善ペースは鈍く、個人消費を中心とした景気回復のペースも緩やかなものに止まるとみられる。

実質GDPと最終需要の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

四半期別実質GDPの推移(計数)

	(前期比年率、%)			
	2022年 10-12月期	2023年 1-3月期	4-6月期(1次速報値)	(寄与度)
実質GDP	0.2	3.7	6.0	—
民間需要	▲1.9	5.7	▲2.0	(▲1.5)
個人消費	1.0	2.5	▲2.1	(▲1.1)
住宅投資	3.8	2.8	7.7	(0.3)
設備投資	▲2.8	7.6	0.1	(0.0)
在庫投資	(▲1.6)	(1.5)	—	(▲0.7)
公的需要	1.5	1.5	1.4	(0.4)
政府消費	0.6	0.4	0.4	(0.1)
公共投資	1.0	7.1	5.0	(0.3)
純輸出	(1.2)	(▲1.0)	—	(7.2)
輸出	6.0	▲14.4	13.6	(2.8)
輸入	▲0.5	▲8.7	▲16.2	(4.4)
GDPデフレーター(前期比)	1.1	1.4	1.4	—
名目GDP	4.9	9.5	12.0	—

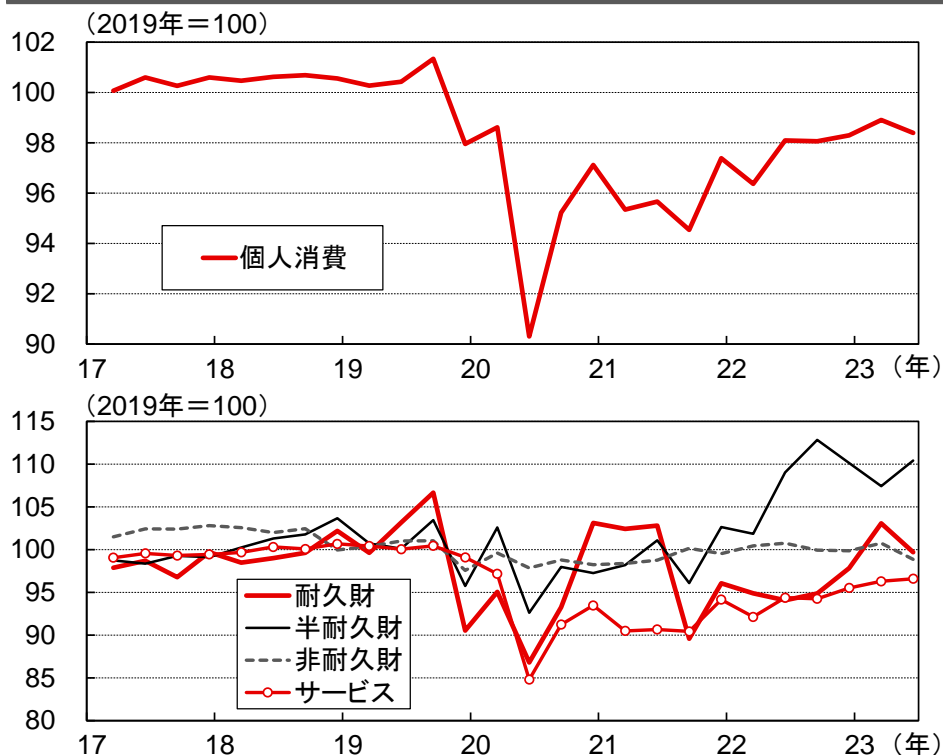
(注)カッコ内は、実質GDPの前期比年率伸び率に対する寄与度。

(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 内需項目

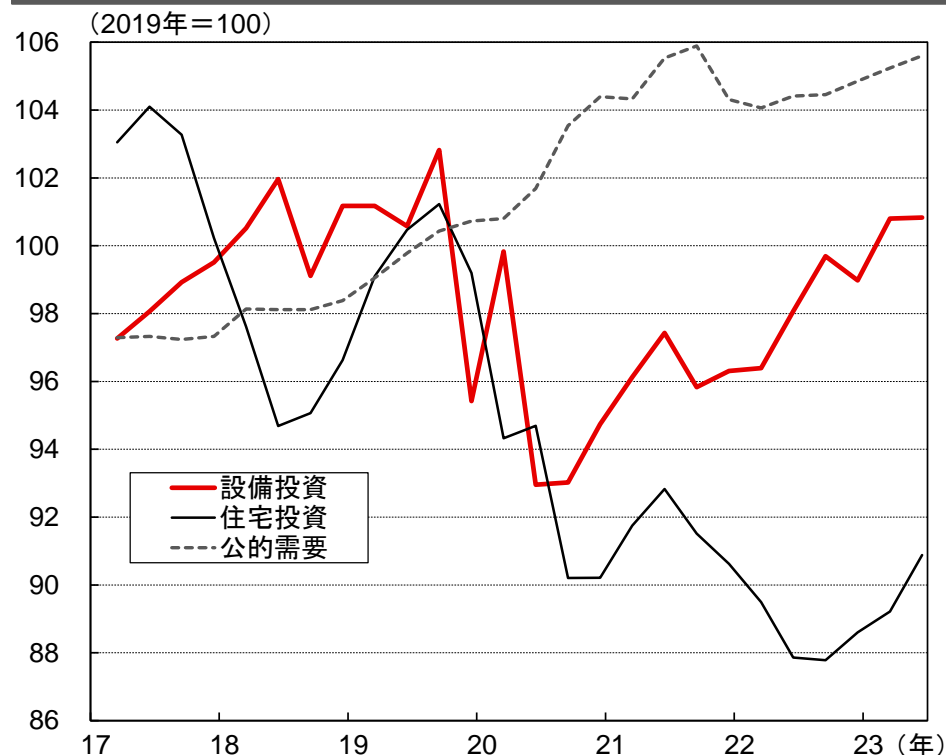
- 個人消費は前期比年率▲2.1%と三四半期ぶりに減少。経済活動正常化に伴い『サービス』の回復は続いた一方、物価高により食料をはじめとした『非耐久財』や、家電等の『耐久財』が減少した。
- 設備投資は同+0.1%と二四半期連続で増加。海外経済の回復ペース鈍化(懸念)は下押し要因ながら、企業の好業績や脱炭素・デジタル化投資の必要性が高まっていること等を背景に、日銀短観6月調査では企業は高い設備投資意欲を示している。
- 住宅投資は同+7.7%と三四半期連続で増加。住宅価格高騰もあり低迷が続いていたものの、底打ちの兆しがみられる。
- 公的需要は同+1.4%と五四半期連続の増加。公共投資の高い伸びが続いている。

実質個人消費、財・サービス別実質個人消費の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

その他の内需項目の推移

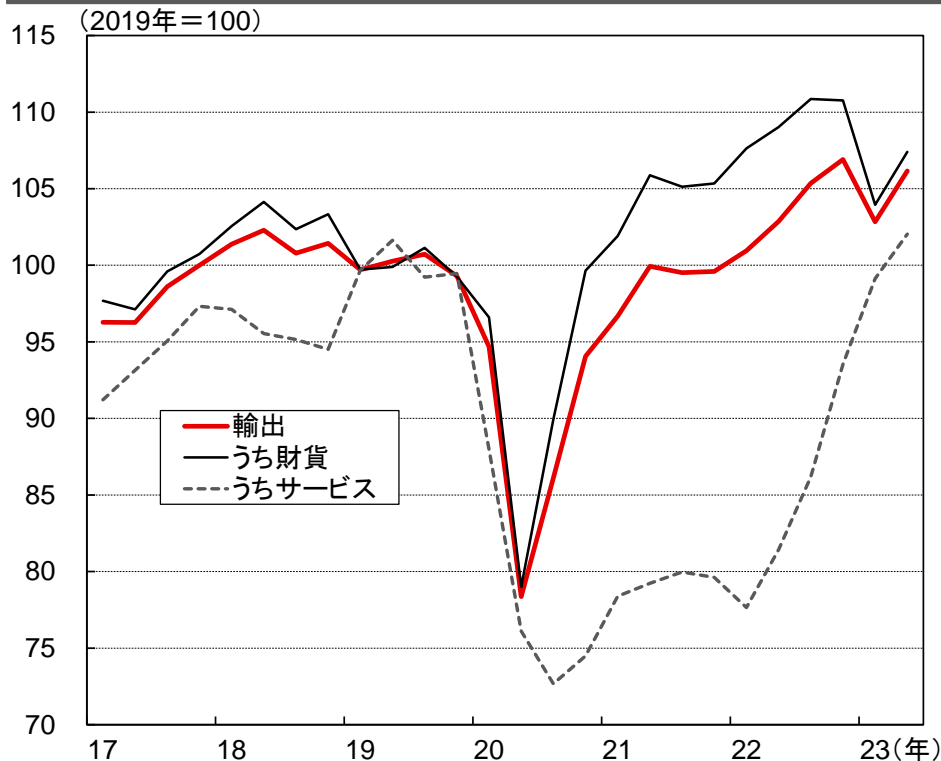


(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 外需項目

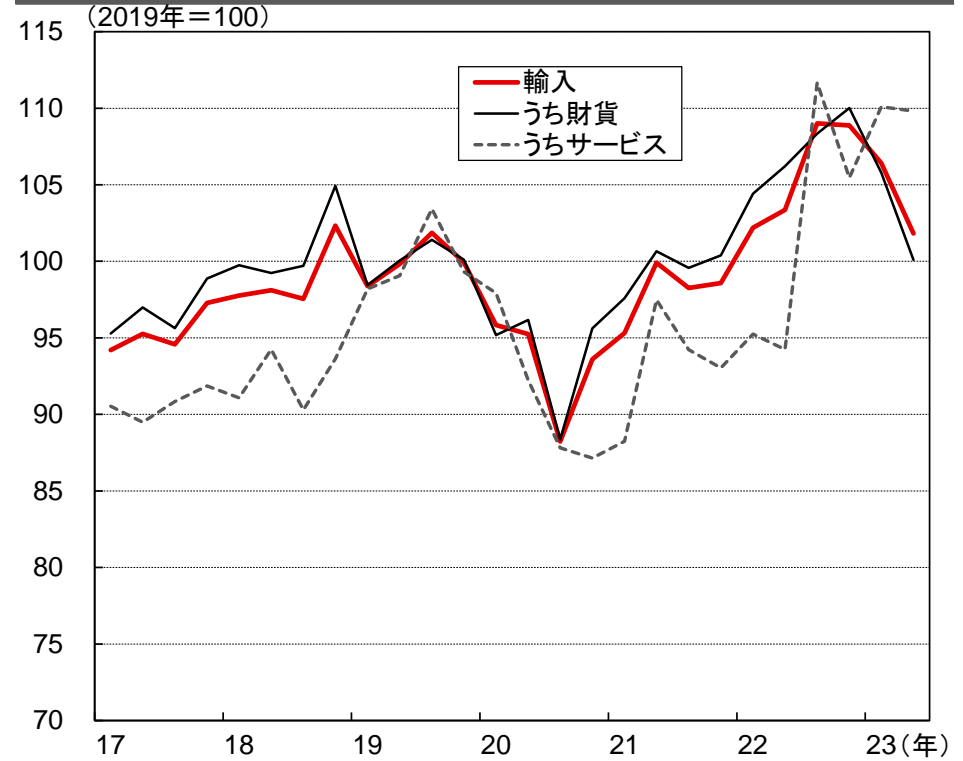
- 輸出は前期比年率+13.6%と2四半期ぶりに増加。供給制約緩和による自動車の輸出増加が寄与したとみられる。
- 輸入は同▲16.2%とで3四半期連続の減少。内需の減速が影響したとみられる。
- 結果として、純輸出(輸出-輸入)の寄与度は同+7.2%ポイントと2四半期ぶりのプラスに転じた。

輸出(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

輸入(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室
〒100-8388 東京都千代田区丸の内2-7-1

照会先：矢吹彩 e-mail: sai_yabuki@mufg.jp